

ケーススタディ

Aチーム

- 減価償却費、会社によって処理がことなる異なる
- どんな加工ができるの？
 - 自由にカスタマイズして変換してくれるツール、プログラム
 - 人それぞれ見方が異なる
- 財務諸表
 - アナリストたちは自分の諸表を作成している。
 - それを作成してくれるツールにニーズがある
 - Q: ボタンを押したら計算結果がでる、というシステムイメージ？
 - 参考: KPIなど、「標準化」がすすんでいる
 - プロの視点(指標)、業界の指標
- 参考: 注記などのデータ化
 - アメリカのEBRで取組中
- 財務/プログラマーの中間の視点(翻訳)が必要
- 「なんでも使える、加工する」では使わない
 - どのように加工すればいいか、などソリューションやツールを提供しないと売れないと思う
 - プロの場合、人によって視点や味付けが様々であるという事実
 - それに応えられるものが必要
- 高田ナオヨシさんの加工手法がおもしろい、独自
- 初心者の個人投資家に財務分析を教育する
 - 例: BSからCFをつくる流れをXBRLなどを活用する
 - アカウンティング系の教育機関、教授の手法(どの銘柄を選定しているかなど)を公表し、教育レベルの参考指標とする
 - 海外の大学ではランキングを公表している

Bチーム

- 標準化から外れている企業を探し出せる仕組み
 - 「どんだけ独自路線だ」
- 科目をもとに要注意銘柄を洗い出す仕組み
- 注目銘柄や持ち株のアラート(モバイル)
- データは無料なので、ロジックがわかれば誰でも作れてしまう
 - ベンダーが配布しているのはシェアをとりたいから、現在広告が表示されている
 - 「有名な人のメソッド(切り口)100」を公開できる仕組み。それに従ったロジックをカスタマイズできる。

Cチーム

- 個人投資家って財務分析するの？
 - 「人のロジックを用いて、財務分析の支援してくれる」
 - ロジックで選ぶ、というよりも、人で選ぶ